

ハンドブック
ワンポイント
レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

シニアでプレーをしています。

先日のシニアの大会を観戦中のことですが、試合中Aペアのボールがベースラインに落ちましたが正審のアウトのコールがなくインの判定のようでした。しかし、相手Bペアの選手がボールの落ちた付近に近づきラケットを置きアウトの主張をしました。正審は副審に確認を依頼し、副審が確認した結果、Bペアの主張通りアウトの判定をし、その場でアウトのサインを出しました。Aペアは判定については従いましたが、正審に、Bペアのラケットを置く行為はイエローカードに値する行為ではないかと訴え、正審はその訴えを認めたらしくBペアにイエローカードを出しました。するとBペアの選手からイエローカードの要求は選手からは出せないのではないのですかの質問が正審に出され、正審が困っている場面を見ました。選手のアピール(質問、クレーム等)に対する対応の仕方を教えてください。

Answer

質問に対して大事なことは、相手の主張をよく聞く姿勢と、アンパイヤーの判断は貫かなければならないという信念を持つべきです。そこで、落下地点にプレーヤーを近か寄せないことです。また、ラケットを置くような行為は直ちに警告(イエローカード)を提示し、アンパイヤーの再判定を待つようにさせましょう。

今回の事例は大会中よく見かけるケースで、残念な事に信念を持ったアンパイヤーではないように受け取れます。

百戦錬磨のシニアの方々には勝敗を意識しすぎるあまり、アンパイヤーとしての心構えを軽く考えてプレーしておられる様に受け取られて仕方ないのです。質問の経緯からベースラインに落ちたことを認めインであったはずの判定を、Bペアからの質問を、そのまま受け入れ副審に確認するように依頼し、Bペアがラケットを置いてアウトの痕跡を主張したところを見たのでしょう、副審もまた判定の結果を正審のところに行って資料を提供すべきところをその場でアウトのサインをして決着しています。何故その時正審は、副審に自分が見た痕跡を示すことが出来なかったのか、アンパイヤーの立場を尊重して採決に従ってほしいと思いますが如何でしょう。

百戦錬磨と言っているのはプレーだけでなく、きわどい判定も多く見たり、出くわして来ており多くの事例を経験してきているはずです。今回質問されたブ

レーヤーの方がアンパイヤーをしている時に、逆に質問されたとしましょう。先程自信を持って判定を下した結論を棚上げて、Bペアからの質問通りに判定を下すのでしょうか。この事例は、プレーヤーからの誘導に従って行動を起こし、アンパイヤーとしての立場は無視されたと同然でしょう。あってはならない事例です。一度インと判定を下したなら責任を持って、質問に答えるべきです。そ



の結果、自分が下した判定が誤っていて、もしも判定を変更するならば、潔くあやまちを訂正することになりますが、判定の変更によって不利になる側に、この事を伝えるのが適当であります。競技規則第40条（異議の申立て等の禁止）〔解説17〕3.「プレーヤー（監督又はコーチを含む）がボールの落下点を確認するため、ネット及びネットの仮想延長線を越えてはならない。また、自陣の前であっても落下点に近寄ってはならない。」となっており、同41条（警告）には、「この40条に明らかに違反したと認められる場合、正審はプレーヤーに対し警告（イエローカード）を与える。」ことになっています。

ところで、そのマッチの正審はBペアが40条に違反する行為をしているにも関わらず、警告（イエローカード）を提示することもなく、副審に痕跡を確認するよう指示していることです。それに対し、Aペアは、あまりにも紳士で再判定に対しては従っており、辛うじてBペアがボールの落下点に近づきラケットを置いた行為に対し警告（イエローカード）を提示すべきと正審に質問をしています。それに対し正審は一瞬どうしたものか迷ったようですが、これについてはAペアが質問するまでもなく、本来Bペアがラケットを置いた時点で警告（イエローカード）を提示す

べきだったでしょう。さらにBペアはAプレーヤーからのアピールに対し「プレーヤーからの警告の要求はできないのではないか。」との意見が出たようですが、このことについてもBペアの競技規則の理解不足が伺えます。

今回の場合、アンパイヤーとして大事なマッチの進行を任されているからには、プレーを楽しまれると同時にアンパイヤーとしてソフトテニスハンドブックの理解を深められ**質問に対する対応手順フローチャート**を参考にプレーヤーとして出場したり、アンパイヤーとして協力したりするようにしたいものです。

関連規則	競技規則
	第40条（異議の申立て等の禁止）〔解説17〕3、同第41条（警告）、同第43条条（提訴）
	審判規則
	第12条（判定の確認）、同第13条（判定の連携）、同第14条（再判定）〔解説25〕、同第20条（警告）
	ジュニア審判マニュアル
	競技規則について
	14. 禁止事項（4）、15. アンパイヤーの判定に異議がある場合はどうしたらよいか？（質問）
	17. 警告
	審判規則について
	4. 判定の確認と連携、5. プレーヤーからの質問があったときは？（再判定）

